

ちからいし 弁慶の力石

富樫氏^{まつ}を祀る本町の布市神社の境内には、全長 50 cm程の半分に割れた石が置かれています。この石を「弁慶の力石」と呼んでいます。

力石の伝承によると、文治3年^{ぶんじ}（1187）ころ、義経が奥州に逃れる

道中、そのお供の弁慶が、野々市にあった富樫氏の館を訪ねました。館では桃の節句ということで、酒盛の宴が催されており、弁慶もその中に加わりました。宴も最高潮となったとき、弁慶は余興として館の中にあつた大きな石を繭^{まゆ}のように軽々と持ち上げ、それを遠くに投げ飛ばしたということです。

神社から北西およそ 500m離れた若松町の一角には「力石」と呼ばれる字名が残り、弁慶の投げた石はこの地に落ちたといわれています。布市神社の力石は、その投げた石の一部と伝わっています。



弁慶が投げ飛ばした力石（布市神社境内）



若松ちから石公園（若松町）



富樫館で勸進帳を読む弁慶
（江戸時代『弁慶一代記』より）



今も親しまれる弁慶
（小松市安宅町）